



園芸作物栽培に関する

これからの対策

Q & A

◎越冬野菜の管理

○圃場の排水のチェック

春になって苗が腐ってしまったというトラブルのほとんどは、排水不良が原因です。積雪前に畝を高くし、溝の手直しを行ってください。

○追肥はしない

生育が遅いからといって、これから追肥を行う方がいますが、逆に寒さに耐える力が落ちる可能性があります。本来は、適期に定植をして生育を図るところですが、作業が遅れると地温が低く、十分な生育が難しくなります。生育が遅い場合は、追肥に頼るのではなく、土寄せや排水を良くして根張りを促進しましょう。

○株元を保護する

作物は積雪時、雪の重みで押しつぶされます。土壌には雑菌も多く葉茎の痛みや腐敗が発生しやすくなります。マルチやモミガラ、敷きワラをすることで土壌に直接押しつぶられないようにしましょう。ソラマメは寒さに弱く葉は傷んでしまいますが、茎が生きていれば春に萌芽してきますので土寄せを十分におこなってください。

○荒天候の対応準備

これからの季節は強風等により、マルチがめくれ作物が傷んだり、アラシで葉がボロボロになったりします。今のうちにマルチのめくれそうな部分に土や石を乗せてください。アラシに対しては、寒冷紗等の緩衝となる物を準備しておきましょう。エンドウは強風で傷まないように支柱を立てましょう。

◎芋類の保管

家庭でできる方法としては、モミガラを詰めたダンボール箱の中に埋

め込み、なるべく温度が確保できる場所(居間や冷蔵庫の上)で保管してください。芋も呼吸しているので、発泡スチロール箱やビニール袋で密封してはいけません。

里芋は基本的に株ごと保管してください。芋を切り離すと傷口が多くなり、腐敗しやすくなります。株の土を洗う場合は、こすり洗うと小傷ができ腐敗の原因になりますので、水圧のみで土を落とし充分乾燥させてから保管してください。ハツ頭は里芋より保管温度が高めですので保存がより難しくなります。

◎肥料・石灰資材の使い方

○育苗培土

「タキイ種まき培土」は、セルトレーで種まきする場合には向いている資材です。肥効期間は約40日です。

「タキイ育苗培土」は、リン酸が高く、窒素、カリが低くなっているので秋野菜向けの資材です。

○微量要素肥料

化学肥料の使用が多いと要素欠乏症が出やすくなります。その対処法としてホウ素や苦土をはじめとした野菜の必要な微量要素を配合した資材が「F・T・E」です。施用量は1aあたり400〜600g程度です。



ブロッコリーのホウ素欠乏



お問合せ先

東部ふれあいセンター内
営農生活課 担当：高橋
TEL.0778-51-8004

バックナンバーはJAたんなんホームページ
<http://ja.tannan.com/> 広報誌をご覧ください。

○ボカシ、堆肥

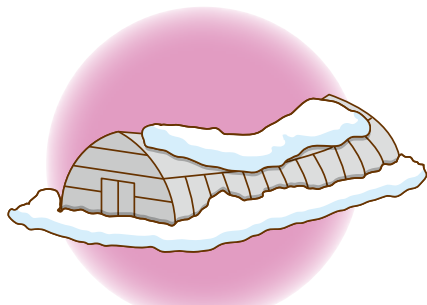
「牛ちゃんパワー」は発酵牛糞です。牛糞の肥効は遅く、ゆっくりと効いてくるので基本的に肥料としては考えず、土壌改良資材として使用してください。施用量は1aあたり100kg程度です。「土魂壤」は、牛糞、生ごみ堆肥ですので、少ないですが肥料分がありますので、土壌改良効果と肥効があり、1a30kg程度施用してください。天然ボカシは、有機肥料として施用します。土壌の微生物を活性化するので、土と作物にやさしい肥料です。施用量は1aあたり15〜20kgです。

○石灰質肥料

「セルカ」は牡蠣殻の粉末で、微量要素も含まれている有機石灰です。肥料との同時散布も可能です。「消石灰」は酸度矯正が強く、赤土や水田からの転換畑等で使います。「マグエース」は、消石灰に野菜に多く吸収される苦土を加用された資材です。「過燐酸石灰」は、リン酸を含んでおり、根張りを良くしますが酸度矯正力はほとんどないので、主にハウス等で使用されます。石灰の1aの使用量は土壌の性質や作物によって様々ですが、一般的には8〜15kg程度です。

◎ビニールハウスの雪害対策

・ハウスに支柱を設置する。支柱間隔は狭いほどよいが目安としては5m間隔以内になります。支柱の設置がされていても、吹雪などに見舞われるとハウスが揺れ、支柱の天井部分が見え、機能を発揮しなくなります。降雪が予想される場合は点検しておきましょう。



・ハウス内に家庭用の石油ストーブを設置し、屋根面の雪の滑落を促進します。目安として15〜20m置きに一基設置する。(不完全燃焼を起こさないよう点検する。)

・ハウスサイドの雪が、ハウスの肩部分を越えてくると、雪が滑落しなくなる

・屋根面に積もるので常にハウスサイドの雪は排除しておく。

・ハウスが潰れる過程では、ハウスが横に広がるので、ハウスの肩部分が外に広がらないようにハウスの内側を針金やワイヤーなどで引っ張っておくと良い。

・倒壊の危険がある場合はハウスのビニールを切り裂きます。単に切れ目を入れただけでは雪は落ちないので、パイプに沿って額縁状に切り取ります。このときハウスのバランスを崩さないように配慮しながら作業を進めます。倒壊の危険が差し迫った場合は、命第一に考え、ハウス内には入らないようにしてください。

・融雪パイプを設置しているハウスは早くから散水を始めてください。散水が遅れ、雪がトンネル状に消えても、その上に雪が積もって行き出なくなる場合もありますので時々点検してあげてください。

屋根雪には散水しないこと!(雪が重くなり倒壊をまねく)

